

VI 本莊南地区の調査

1. 医学部 RI 総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査(9511調査地点)

(1) 調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

医学部再開発計画に基づき、医学部校舎中庭（駐車場として使用）に RI 総合センター遺伝子実験施設の建設が1995年度より開始されることとなった。施設部よりこの旨の報告があり、埋蔵文化財の調査が必要か否かの打診があった。これを受けて埋蔵文化財調査室では、遺跡周辺部でもあり、その存在が予想されるため試掘調査が必要であると判断し、その旨を両者で協議した。

調査室では、理学部臨海実験所内の発掘調査中であり、その終了をまって試掘調査を行うこととなった。1995年11月6日～同年11月8日にかけて2日間試掘調査を実施した。その結果、地表下1.3mに奈良時代～平安時代前半期の遺物包含層とその下に堅穴住居址を中心とする遺構が存在することが判明した。これを受けて、1995年11月27日に埋蔵文化財調査委員会の三者会議を開き、本調査を実施することとなった。先行して樹木伐採および移転、取排水管切り替え工事に伴い、立会調査を実施した。後の調査経緯に関しては、以下のとおりである。調査総面積は1,277㎡である。

b. 調査の経過

- 1995年11月24日 排水管切り替え工事立会調査。
- 12月1日 排水管切り替え工事立会調査。
- 12月4日 樹木移植工事立会調査。
- 12月25日 調査開始。I区攪乱部分の掘削、縄文土器片出土。
- 1996年1月9日 降雪の中攪乱掘り、遺構面掘下げ。縄文土器多数出土。
- 1月10日 遺構配置図平板測量。
- 1月26日 溝・住居址など掘り上げ。20号溝断面図作成。25号堅穴住居址土器集中検出。
- 1月31日 遺構面霜柱で凍る。各遺構調査。
- 2月2日 50号住居址・19号溝掘下げ。
- 2月13日 65号遺構遺物上げ。85号掘立柱建物確認。I区南半部柱穴探し。
- 2月14日 I区写真撮影。遺構面掘下げ最終確認。
- 2月15日 II区掘下げ開始。遺構検出。
- 2月19日 30号溝掘り下げ、馬の歯出土。
- 2月20日 II区写真撮影。
- 2月22日 発掘調査終了。

c. 調査の組織

調査員：小畑弘己

事務担当：矢野希久代

発掘作業員：飯田孝俊・今村佳子・岩谷史記・大坪志子・岡村久美子・押方富江・甲斐美紀代・
甲斐田末男・窪田千代子・古賀敬子・小細工洋子・柴田やよひ・白石美智子・
田中大介・土田ちえみ・橋本キヨカ・林田恵子・原田範昭・番山明子・福田久美子・
藤岡泰江・堀川貞子・本田浩二郎・松井昭子・松浦一之介・水上順子・森田ミドリ・
若杉竜太

整理作業員：古賀敬子・藤岡泰江

1. 医学部 RI 総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査

(2) 調査区の基本層序 (図51)

堆積土壌および性質については、同じ白川右岸にある黒髪町遺跡群(黒髪南地区)によく似た様相を示している。

表層 表層は近・現代の攪乱層である。厚さ80~120cm。

1層 黒褐色土層(10YR2/3)。埋め土。厚さ40cm。

2層 暗褐色土層(10YR3/3)肉眼的には淡茶褐色に見える。近世~明治時代の遺物を含んでいる。厚さ30cm。

3層 黒褐色土層(10YR2/2)。奈良~平安時代の遺物を多く含み、縄文時代後期後半から晩期初頭の土器および石器を若干を含んでいる。厚さ30cmあまり。大江遺跡群ではこの縄文時代の包含層は単層として分層可能であるが、本調査地点では分離できなかった。

4層 明黄色土層(10YR6/8)。基盤層である。上部にわずかに縄文時代の遺物を含む。遺構は3層中および4層面で検出した。

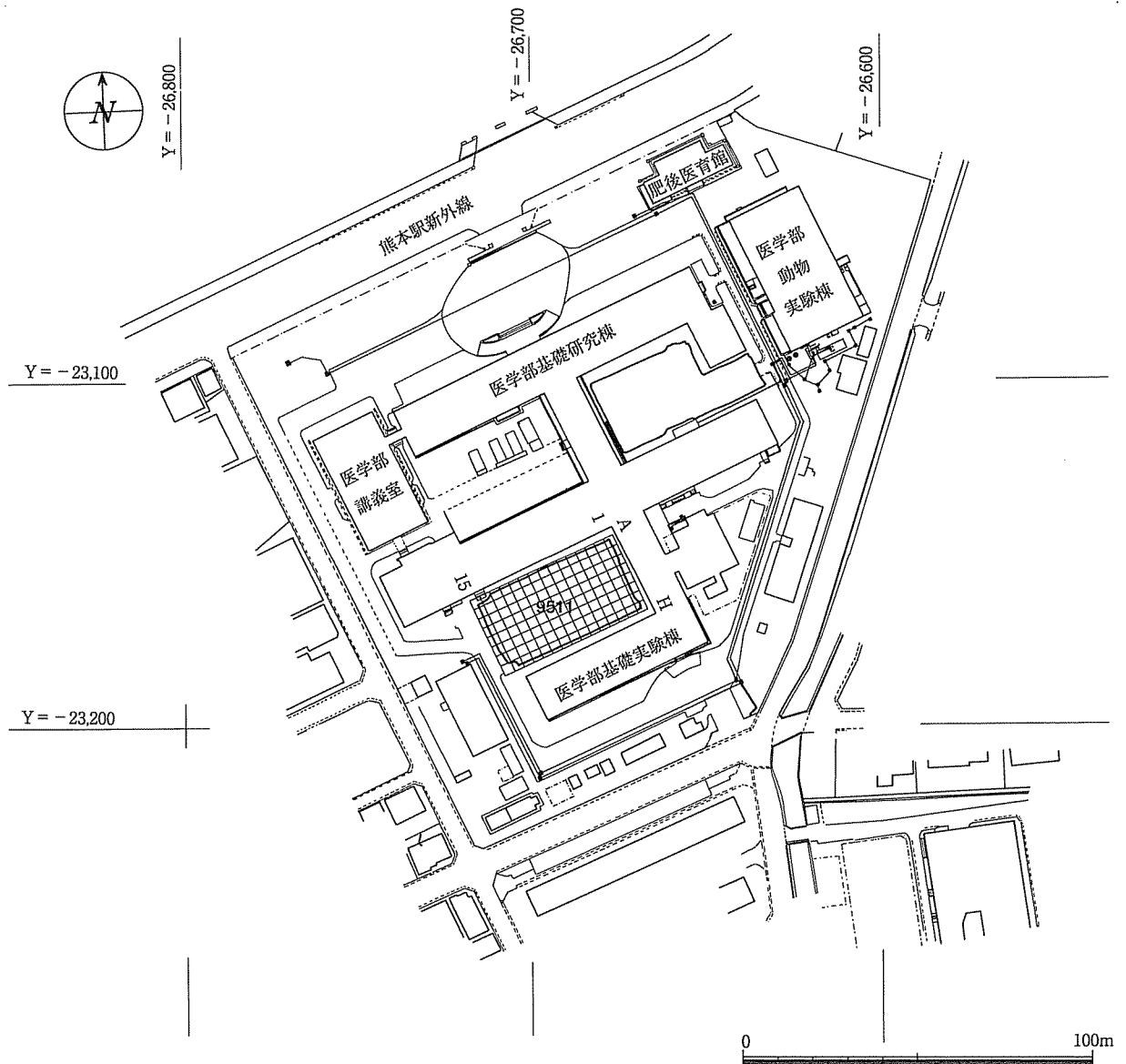


図49 本荘南地区における既往調査地点と9511調査地点の位置図 (1/2000)

X = -23115.815
• Y = -26559.920

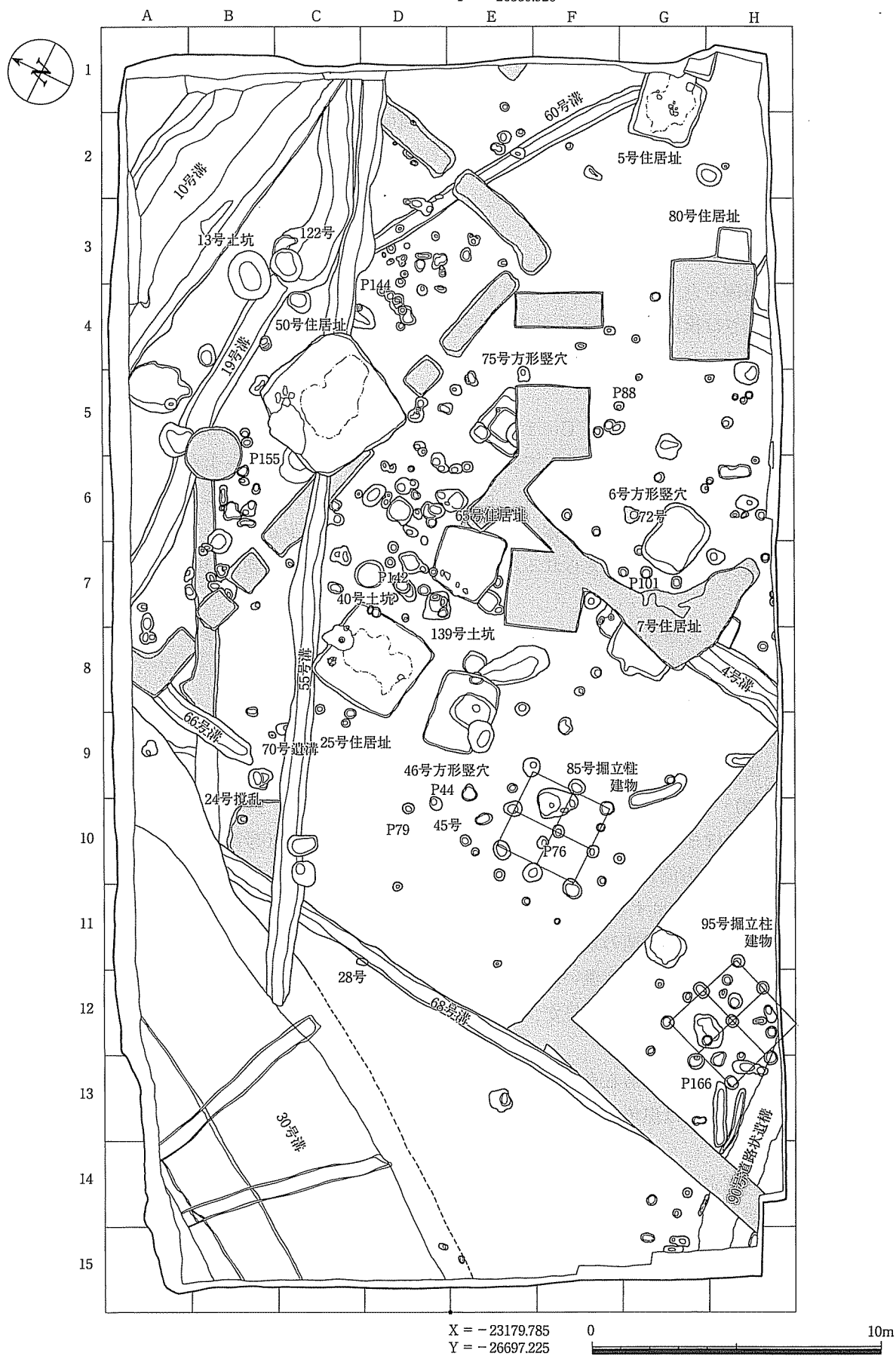


図50 9511調査地点遺構配置図 (1/200) (アミ部分は掘乱)

(3) 検出遺構

今回の調査区 (954m²) では、戦国時代～近世の堀 2 条、近世土坑 6 基、奈良～平安時代前半の竪穴住居址 5 基、方形竪穴遺構 4 基、同期溝 3 条、古墳時代後期溝 1 条を検出した (図50)。遺物包含層からは、D-6 区において縄文時代後・晩期の石皿や磨石、土器片が集中する箇所もあり、遺構の存在した可能性もある。

<溝>

30号溝

調査区の北西隅を北東-南西方向に走る幅 8 m あまりの溝である。本来は幅10m 以上であったと考えられる。深さは検出面で 1 m あまりである。西側に幅2.6m あまりの一段深い部分があり、ここから大型の獣の骨などが出土した。掘り込みは基盤の砂岩層まで達している。近世初期の遺物を含む。

10号溝 (図52・図版30-3)

10号溝は調査区の北東部、A～C・1～4 区で検出した幅 7 m、深さ1.5m の断面形逆台形の堀である。基底は岩盤の砂岩層まで達している。溝の肩部はゆるやかに立ち上がり、その変換点には浅い幅30cm、深さ 5 cm あまりの溝がある。下部は水の流れた痕跡が認められ、その部分から馬の歯や骨が数点出土した。古代の遺物が主体で、掘削時期を示す資料は少ないが、青磁片や瓦質の火舎片などから、16世紀後半の掘削と考えられる。また、北宋銭「熙寧元寶 (初鑄1168年)」が出土している。

4号溝

H-8 区で検出した断面レンズ状の浅い溝である。幅1.4m、深さ40cm ほどである。攪乱によって破壊され、溝の行方は不明である。近世以降の時期であろう。

19号溝 (図52)

C-1 区から A-7 区にかけて流れる幅1.2m、深さ80cm の断面逆台形の溝である。C-3 区においてわずかに南へ蛇行するが、この部分において基底に20cm あまりの段差が認められる。

55号溝 (図52)

C-3 区からほぼまっすぐに南西方向へ延びる溝である。端部は30号溝の掘削によって破壊されており、その延長部の方向は不明である。現状で32m あまりを確認した。形状は幅75～100cm で深さ60cm あまりの逆台形を呈する。基底と下から30cm の部分に鉄分の沈殿硬化した厚さ 2 cm ほどの赤黒色層が認められ、2 時期の水の流れがあったことが窺える。この硬化層はかなり硬く、通常の水路として機能していたとは考え難い。最終的には砂岩や泥岩などの小礫を含む白色の土で埋められている。出土遺物は少なく、土師器片が少量出土している。

60号溝

G-1 区から D-3 区にある東南-北西方向の溝である。幅50cm、深さ10cm ほどの断面形 U 字形の浅い溝である。覆土は黒色のやわらかい土である。5号竪穴住居址および55号溝に切られる。

68号溝

ほぼ南北方向に走る幅60cm、深さ60cm あまりの断面形逆台形の溝である。覆土は単一で黒色の硬く締まった土である。土師器の甕形土器の破片が少量出土している。D-12区の検出した面より10cm ほど上部で須恵器坏身 (99) が出土しており、切り合いからみても、本遺跡の最古期に属することから、この坏が示す 6 世紀末がこの溝の掘削時期と考えられる。

<道路状遺構>

調査区南西隅で検出した幅1.4m ほどの道路状の遺構である (90号道路状遺構)。黒色土下に黒褐色の硬い面が認められる。方向はほぼ東西方向である。道路面除去後に北辺に幅20cm、深さ 5 cm ほど

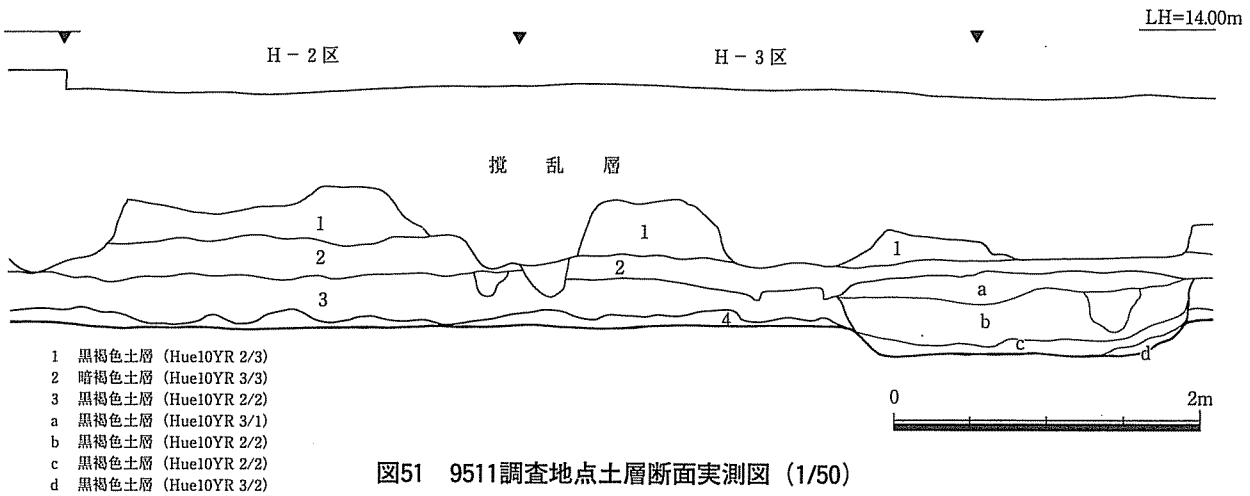


図51 9511調査地点土層断面実測図 (1/50)

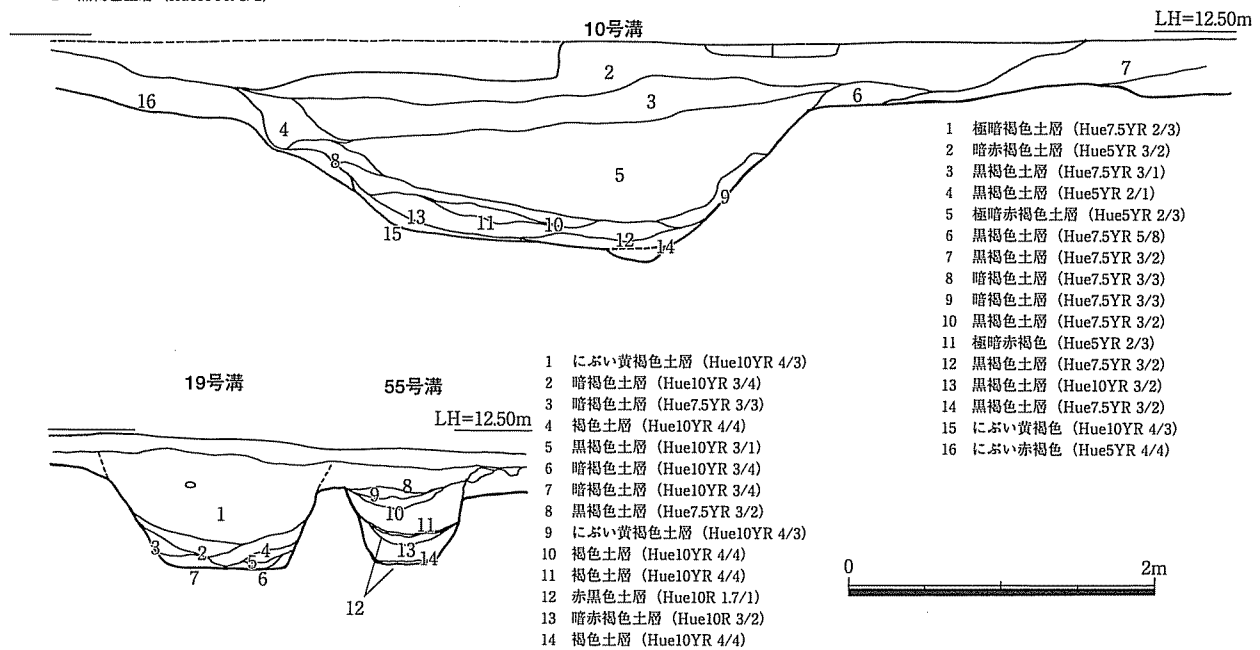


図52 10・19・55号溝土層断面実測図 (1/50)

の溝を部分的ではあるが検出した。95号掘立柱建物址の柱穴の一つがこの遺構の下に検出され、95号掘立柱建物より新しい時期であることがわかる。竪穴住居址群と同じか近接した時期と考えられる。

<竪穴住居址>

50号竪穴住居址 (図53・図版30-10)

C・D-4・5区で検出した長辺4.1m、短辺4.05m、深さ30cmあまりの竪穴住居址である。北西辺の中央に造り付けの竈をもつ。竈は破壊されており、竈東側に砂岩ブロックと粘土混じりの土が堆積していた。竈前面から対面方向にむけて幅1.5mほどの床の硬化した面が認められた。柱穴は竈両脇に検出した2つの穴以外は、整然とした配置をもつものはなかった。出土遺物としては住居北隅と竈周辺の床上から甕形土器の破片が、南東隅の覆土上面から須恵器高杯の脚部が出土した。本調査区で最も大きな竪穴住居址である。55号溝を切っており、床面下に溝の覆土が認められる。

25号竪穴住居址 (図53・図版30-5~10)

C・D-7・8区で検出した長辺3.3m、短辺3.2m、深さ30cmの隅丸方形の竪穴住居址である。覆

土の上部には土師器の甕形土器や甌などが多量に投棄されていた。断面図をみると北西隅から投棄されており、住居址の中心部に向かってわずかに傾斜している。住居の断面図からみて、レンズ状に窪みとして残っていた住居に投棄したことがわかる。

本住居の竈は北辺の中央部に設けられているが、残り具合が良好であった。竈上部は潰れた状態であったが、竈の主体はほとんど壊されておらず、甕形土器(図55-12)を支脚にのせたまま残存していた。また、竈の両脇には完形の壺形土器(同10)と潰れた状態の甌(同11)が各1点残存していた。これは、他の住居址の竈がほとんど壊され、土器も破壊されるか持ち去られているのとは対照的である。竈の焚口部分に竈の天井部の粘土が崩落していた。両袖の先端には角柱形の砂岩製支柱が深さ20cmほど地中に埋めこまれていた。竈袖の奥からは刀子状の鉄器やU字形の不明鉄器が出土した。竈構築の祭祀に関わるものであろう。竈前面から対面の南辺に向けて幅1.6mほどの床の硬化した面が認められた。その端には20cm角の方形の礫石が埋めこまれ、その上面は擦れて皿状になっていた。また、その北側には直径40cm、深さ5cmほどの窪みが石礫を囲むように存在していた。これは、出入り口の踏み石とその前面にできた窪みと考えられ、竈の対面に入り口を想定できる。

5号竪穴住居址(図54・図版31-11)

G-1・2区で検出した長辺2.4m、短辺2.2m、深さ32cmの竪穴住居址である。東辺中央に竈をもつ。竈は焚き口に若干の焼土層と焼けた面を残すのみで、上部の構築部は破壊されていた。住居中央に砂岩ブロック数個と磨石状の丸い礫、上面が皿状に擦れた扁平礫各1点が投棄してあった。また、竈右の覆土上面にも大きな砂岩の板石が1点廃棄されていた。住居中央を中心として床の硬化が認められた。柱穴は検出できなかった。覆土中から須恵器片や土師器片が若干出土している。うち判読不明であるが、底部外面に墨書をもつ土師器杯片(図58-49)がある。

65号竪穴住居址(図54・図版31-12)

E-6・7区で検出したやや不整形な長方形の竪穴住居址である。長辺2.4m、短辺2.3m、深さ10~20cmである。西辺中央に竈の痕跡を残す。竈には2本の砂岩製の角柱形の支柱が残っており、右側の1点は10cmほど床面から掘り込まれた穴に据えられていた。その右側には砂岩ブロック2点が倒壊した状態で廃棄されており、その下から土師器甕の破片が出土した。竈本体部は焼けてわずかに赤く変色していた。遺物は破片になって床面全体から散漫に出土するが、須恵器の坏2点(図58-56・58)はほぼ完形であった。

7号竪穴住居址(図54・図版31-13)

G-7・8区で検出した竪穴住居址である。大半を現代の攪乱に破壊されるため、全形は不明である。残存部の辺の長さは2.6m、深さは25cmである。覆土上面から砂岩ブロック1点、床面直上から土師器皿1点(図59-67)が出土した。竈や柱穴の位置は不明である。西辺に竈らしい張り出しはあるが、竈とは確定できない。しかし、東西方向に竈が存在した可能性は高い。

80号竪穴住居址

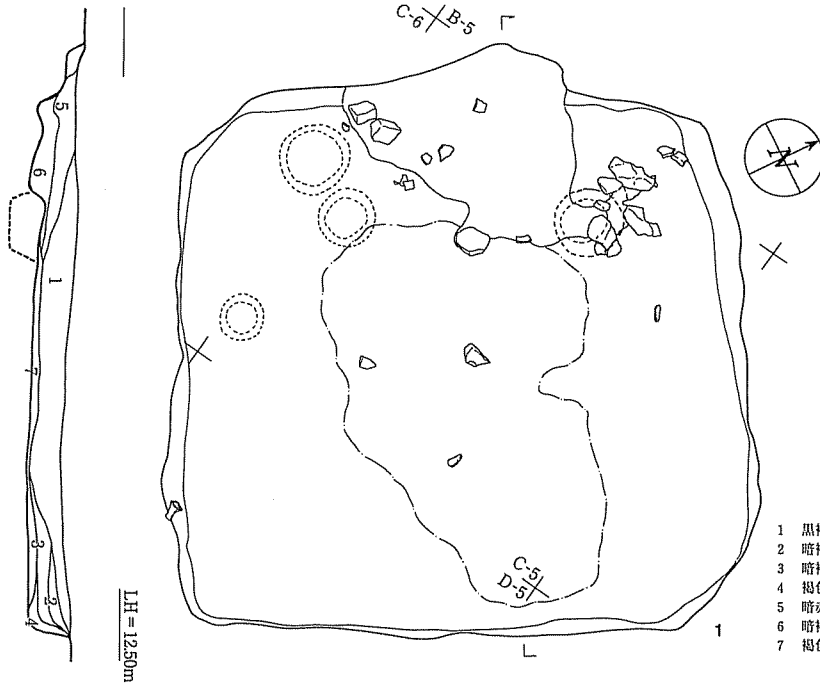
H-3・4区で検出した竪穴住居址である。そのほとんどが調査区外に存在し、西隅は現代の基礎により破壊されているので、規模については不明である。深さは検出面で20cmほどであるが、調査区南壁の土層断面によると包含層(4層)を切り込んだ50cmほどの壁の立ち上がりを確認できる。

<方形竪穴遺構>

6号方形竪穴(図54・図版31-14)

G-6・7区で検出した長さ2.4m、幅1.9m、深さ80cmの隅丸長方形の竪穴である。床面は硬い。他の遺構に比べてかなり深い。遺物は覆土上面から出土し、窪みに投棄されたものがほとんどである。

50号竪穴住居址



25号竪穴住居址

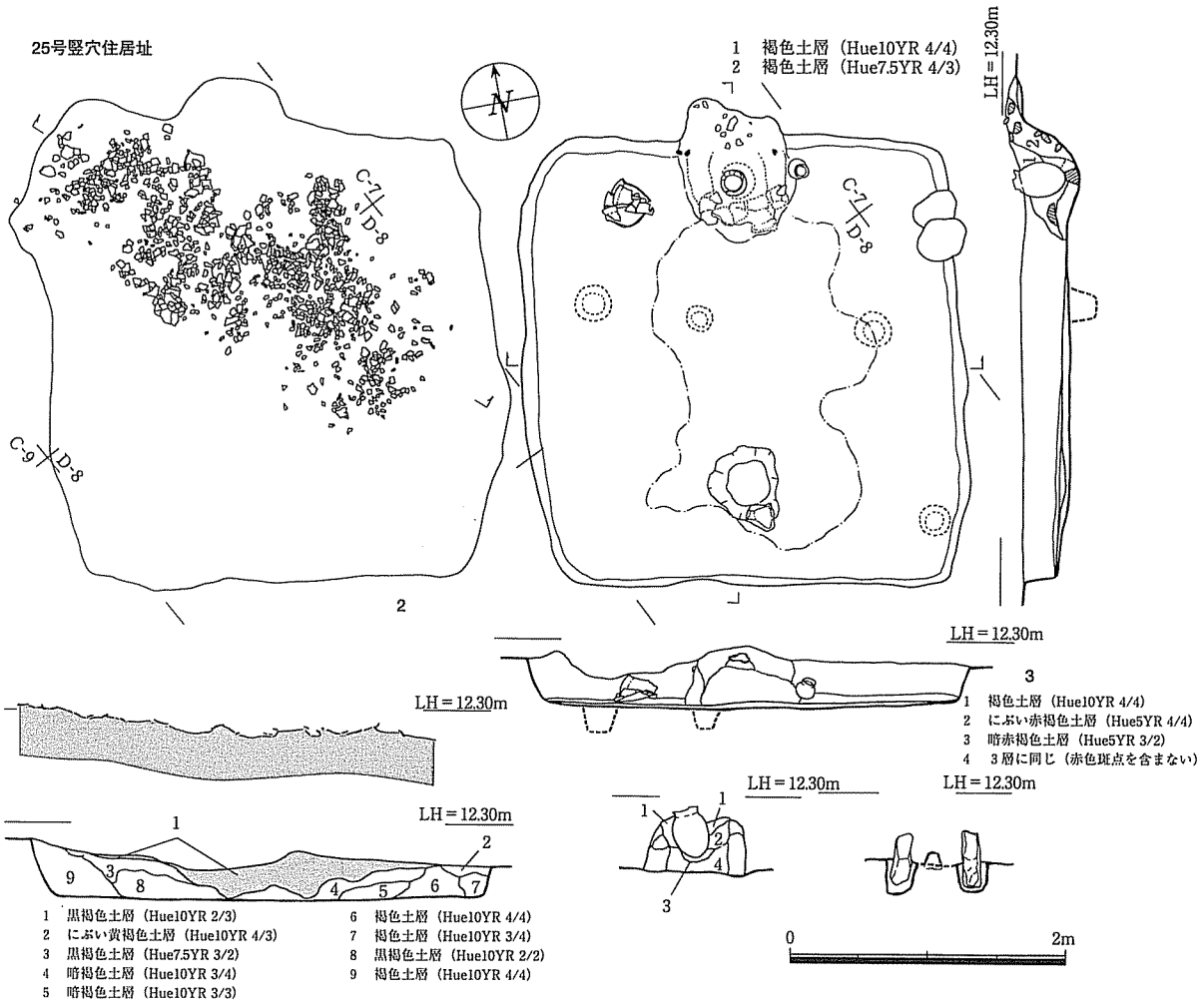


図53 50号・25号住居址実測図 (1/50)

1. 医学部 RI 総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査

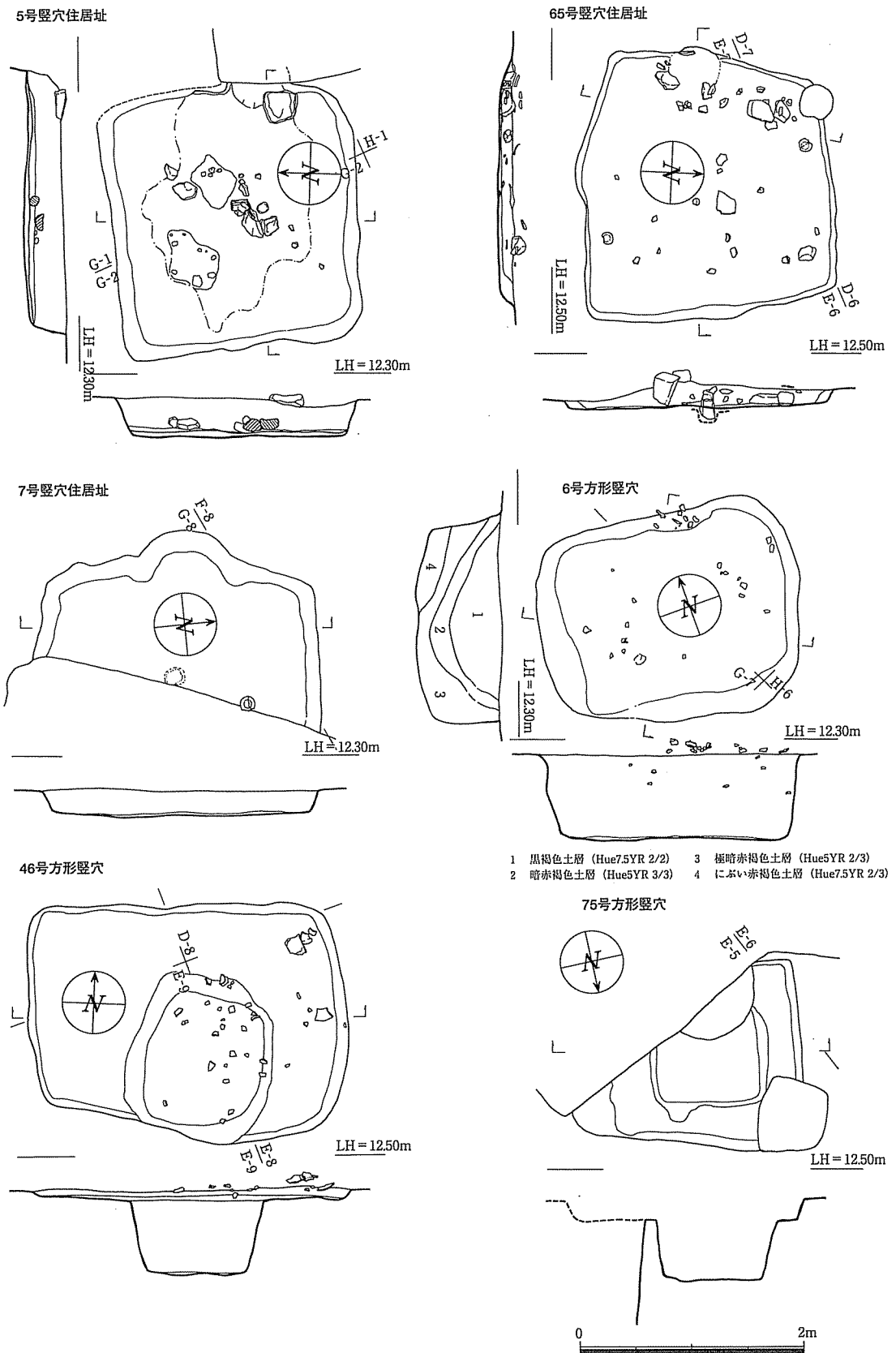


図54 5・7・65号住居址・6・46・75号方形竖穴遺構実測図 (1/50)

床面近くから鉄製の刀子1点(図59-77)が出土した。

46号方形竪穴(図54・図版31-15)

D・E-8・9区で検出した長さ2.9m、幅2.2m、深さ10cmの隅丸長方形の竪穴である。中央南辺寄りに1.5×1.3×0.7mの略長方形の竪穴がある。時期の異なる遺構とも考えたが、土層の堆積状況からは、区別することはできなかった。遺物は主に覆土上面から出土する。そのうち、須恵器の高台付坏(図59-78)の底部に「風」に似た字の墨書がある。

75号方形竪穴(図54・図版31-16)

E-5区で検出した2.1m、幅1.8m、深さ20cmの隅丸長方形の方形竪穴である。約半分を攪乱で破壊されている。これも46号方形竪穴と同じく中央部に1.0×0.8×0.6mの長方形の竪穴をもつ。

<掘立柱建物>

85号掘立柱建物址(図版31-17)

E・F-9・10区で検出した2×2間の総柱の掘立柱建物である。建物規模は3.2×3.0mほどで、柱間は柱穴の真芯で最短1.4m、最長1.75m、平均1.5mである。柱穴は直径70cm、深さ50cmである。やや柱筋のとおらない辺もある。柱痕跡は検出できなかった。

95号掘立柱建物址(図版31-18)

G・H-11~13区で検出した2×2間の総柱の掘立柱建物址である。柱穴の一つは調査区外にあり、未検出である。想定される建物規模は3.2×3.0mほどで、85号掘立柱建物址と同規模である。柱間は柱穴の真芯で最短1.3m、最長2.0m、平均1.58mである。柱穴は直径50~60cm、深さ55cmである。やはり、柱筋のとおらない辺もあり、方向がやや東に振れる以外は85号掘立柱建物址ときわめてよく似た規模と構造をもつ。柱痕跡は検出できなかった。

<その他の遺構>

70号遺構

B-9区で検出した遺構である。上部に口縁部を欠いた完形に近い須恵器の壺1点(図60-104)が据えてあった。壺の外表面は風化が著しく、器面が剥落する部分もある。壺の下には直径60cm、深さ50cmほどの柱穴があり、柱の抜き跡に壺を置いたものと考えられる。しかし、建物の廃棄に伴う祭祀跡としてもそれに付随する建物はこの地点には存在しない。意味不明の遺構である。

これによく似た完形に近い須恵器を置いたものは、A-7区(同一113)やD-4区(同一112)でも認められ、包含層の破片になった個体とは性格がまったく異なることから、何らかの埋置行為の結果であろうが、残念ながら明確な遺構に伴って検出することはできなかった。

(4) 出土遺物(図55~62・図版33~36)

出土遺物は総量でコンテナに70箱ほどになる。古代の土師器・須恵器の類を中心とするが、縄文時代の土器・石器なども一定量含まれている。縄文土器は破片数にして100点ほどである。

10号溝出土遺物

1は青磁碗、2・3は須恵器の甕の口縁部片である。

19号溝出土遺物

4は土師器甕の口縁部の小片である。

50号溝出土遺物

5は土師器の高坏の口縁部片である。6は土師器碗の高台部分である。7は須恵器高坏の脚部である。8・9は土師器甕の口縁部片である。

1. 医学部 RI 総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査

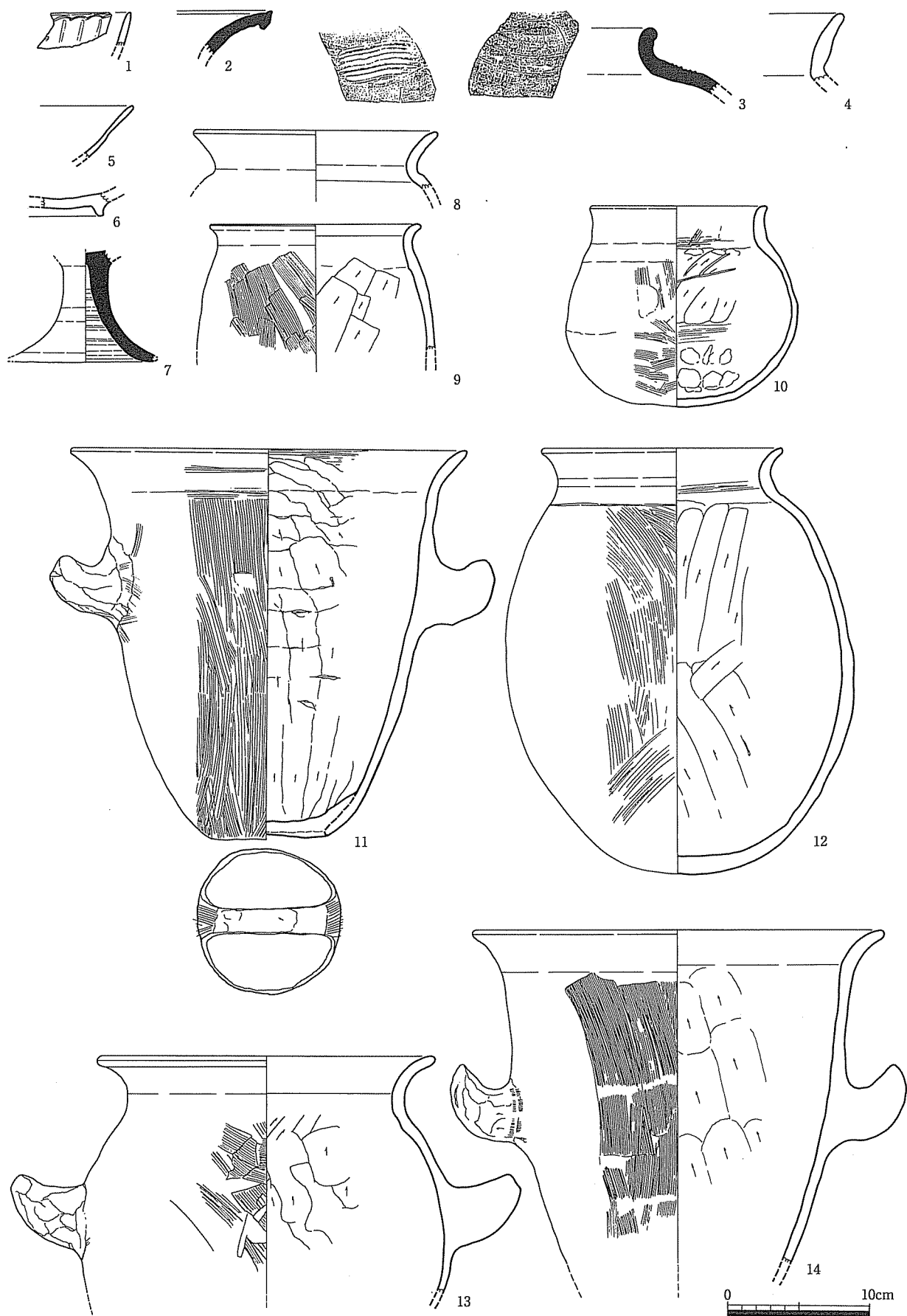


図55 9511調査地点出土遺物実測図1 (1/4)

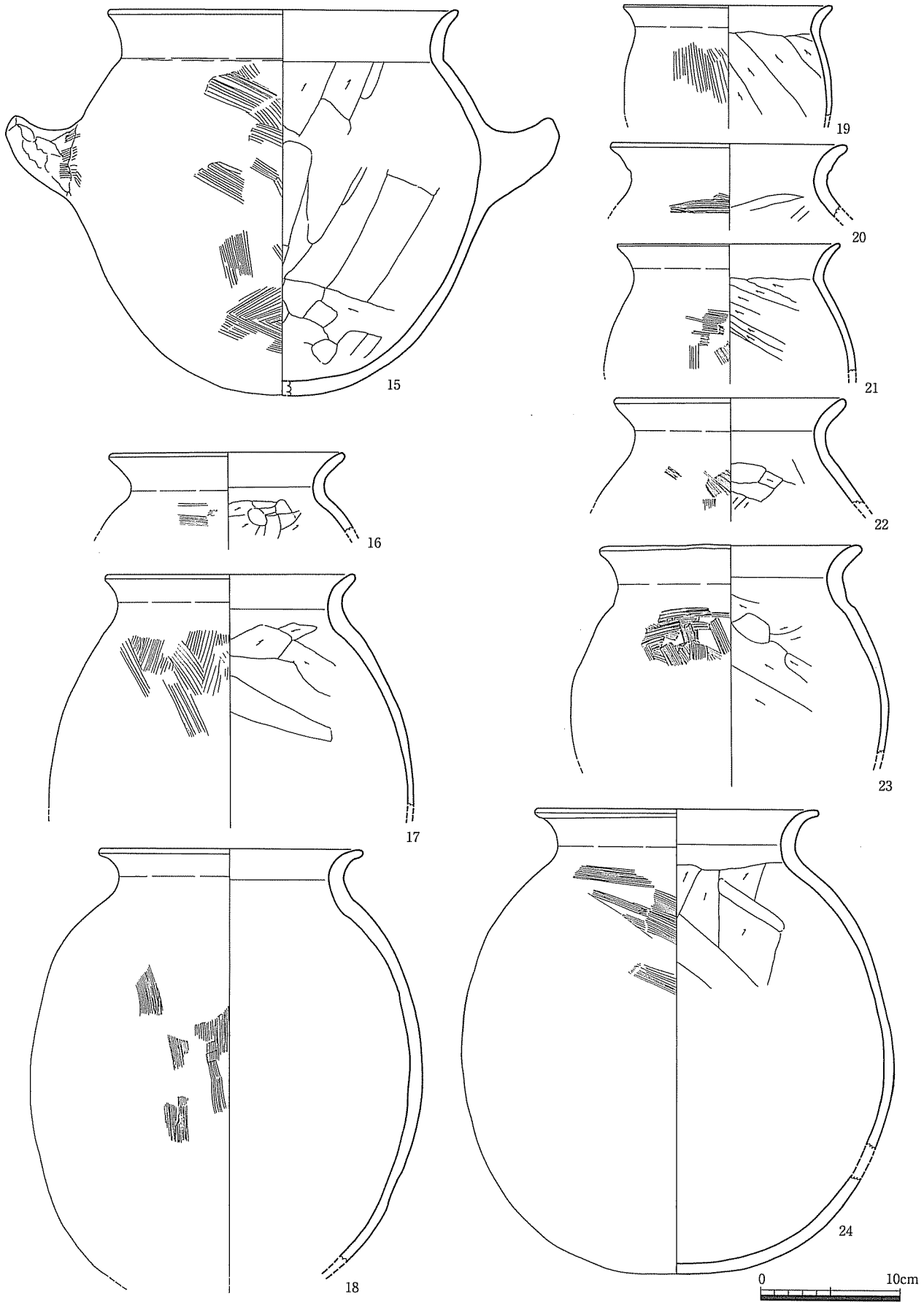


図56 9511調査地点出土遺物実測図2 (1/4)

1. 医学部 RI 総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査

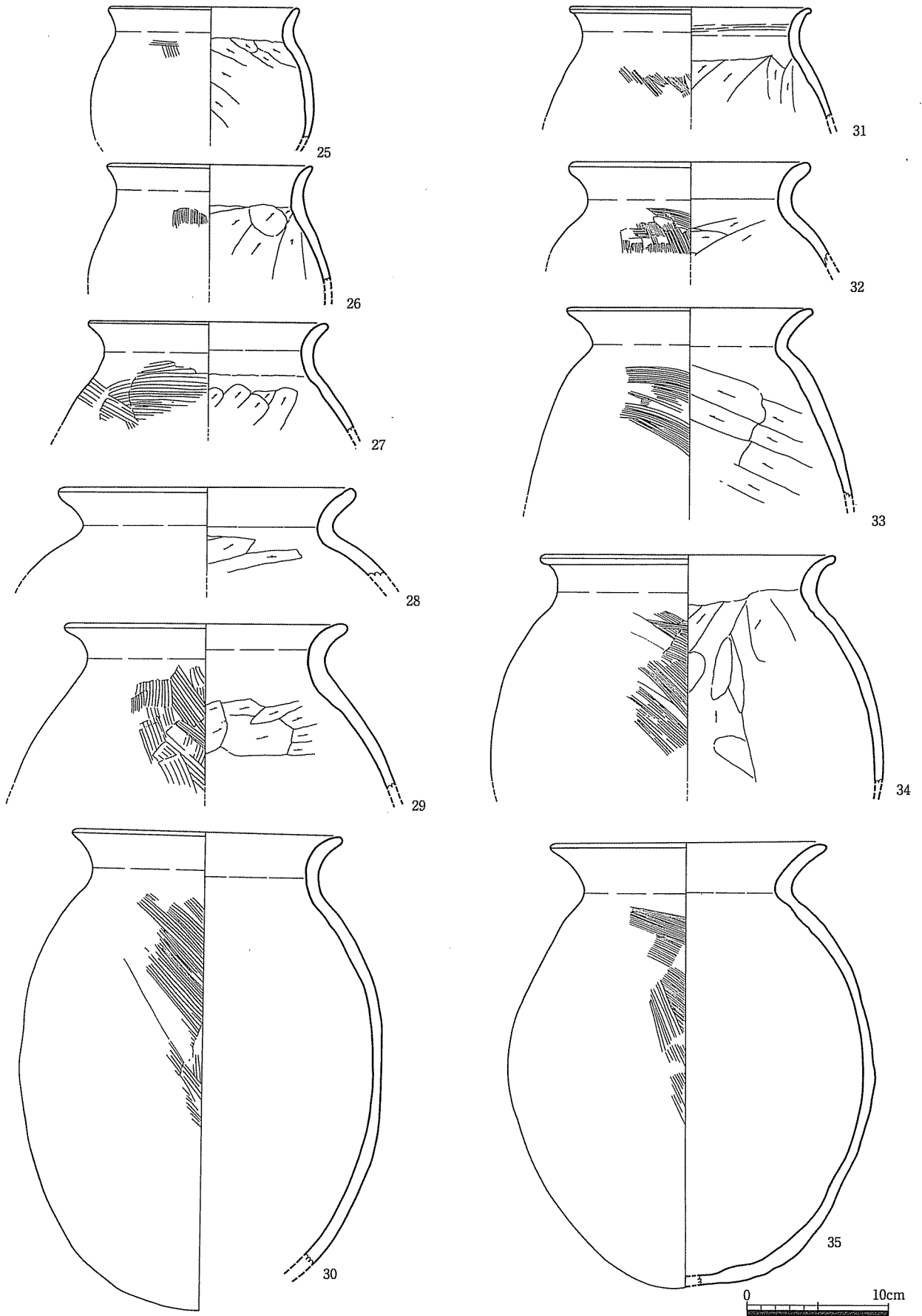


図57 9511調査地点出土遺物実測図3 (1/4)

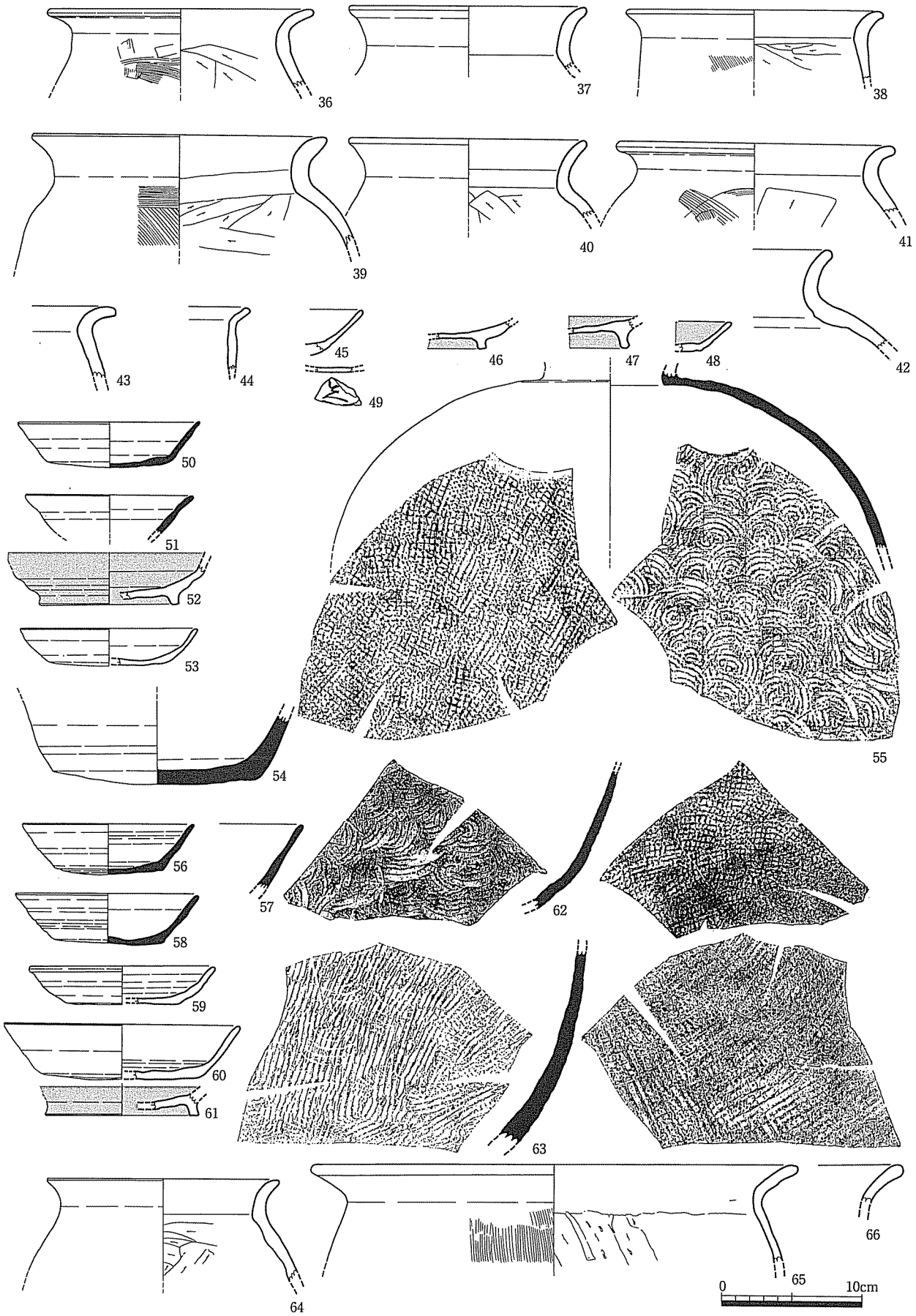


図58 9511調査地点出土遺物実測図4 (1/4)

1. 医学部 RI 総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査

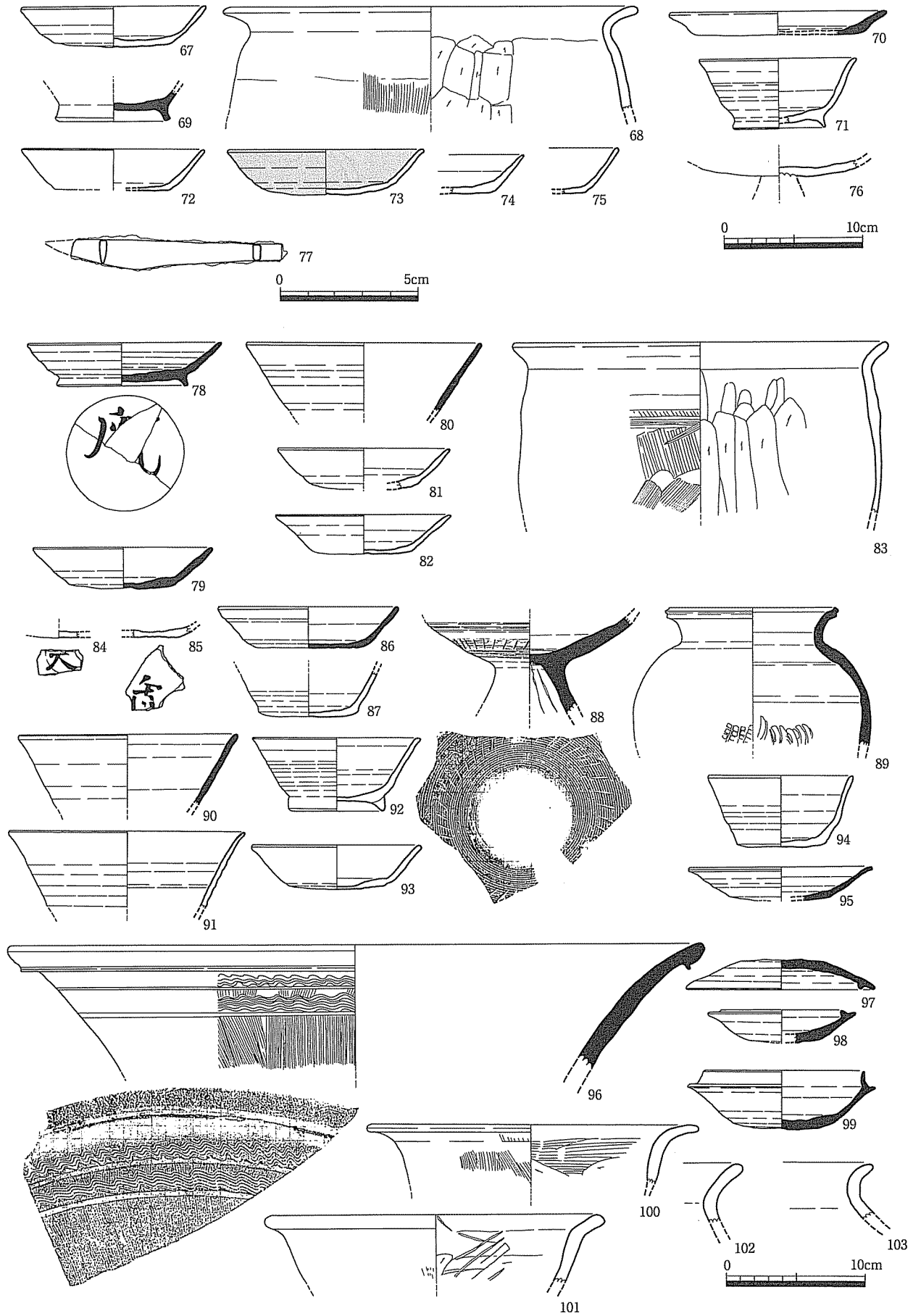


図59 9511調査地点出土遺物実測図5 (1/4・1/2)

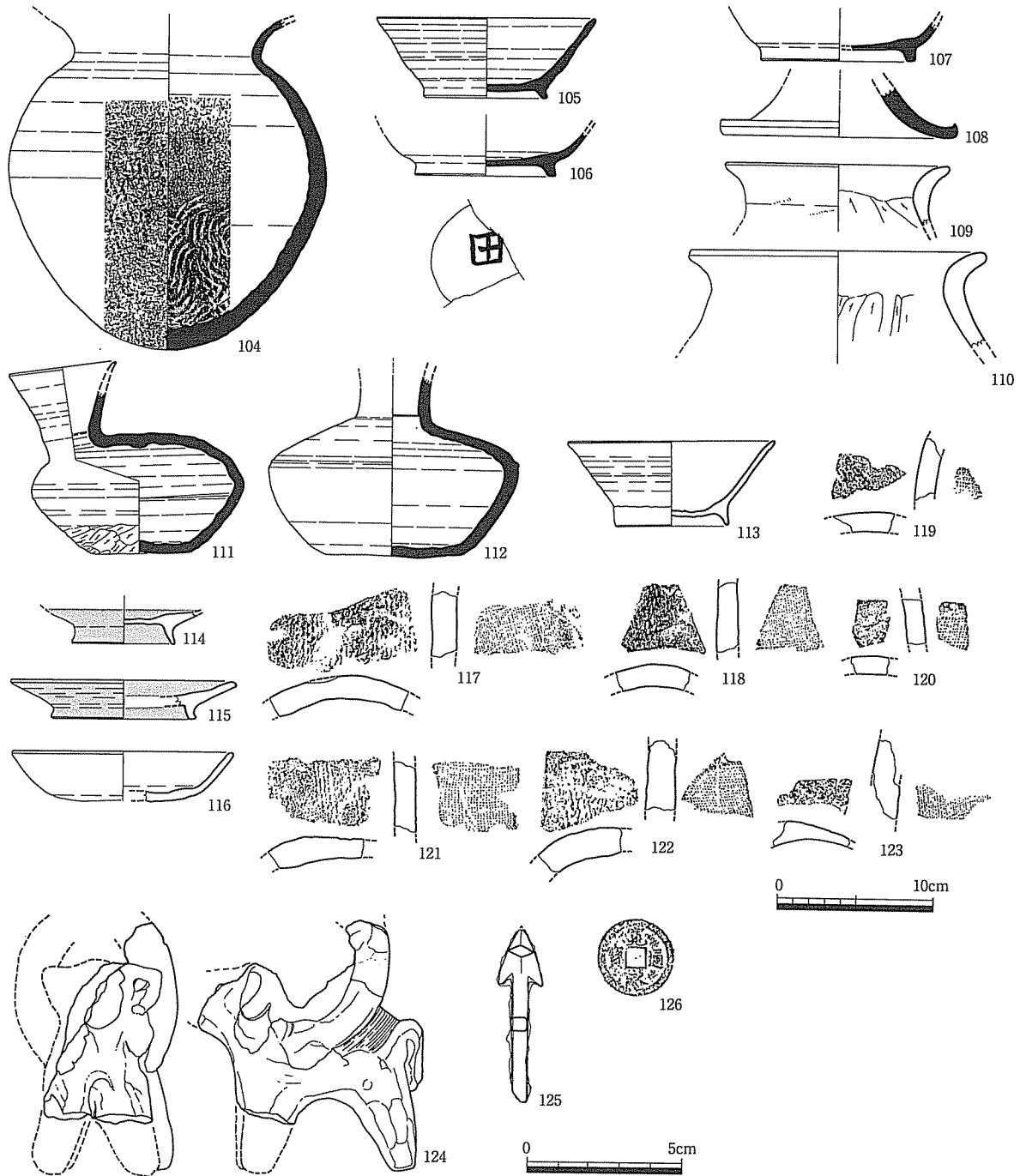


図60 9511調査地点出土遺物実測図6 (1/4・1/2)

25号竪穴住居址出土遺物

本遺構からは覆土上面に廃棄された状態で土師器甕・甑がおよそ50個体ほど出土した。遺構の時期を示すものは、甕およびその周囲に遺棄された状態で出土した土師器甕・甑（10～12）である。10は竈のすぐ右横から出土した土師器の小型壺である。外面のほとんどと内面の下半部に煤が付着している。12は土師器の甕であるが、竈に据えられた状態で出土した。外面のおよそ半分と底部付近に煤が付着している。11は底部中央を橋梁状に残して穿孔した甑である。これらの土器は一部欠損する箇所があるがいずれもほぼ完形品であった。

覆土上部に廃棄された土器は大小の甕形土器（19～42）がほとんどで、わずかに把手付甕2点（13・15）、甑1点（14）が含まれるだけであった。

1. 医学部 RI 総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査

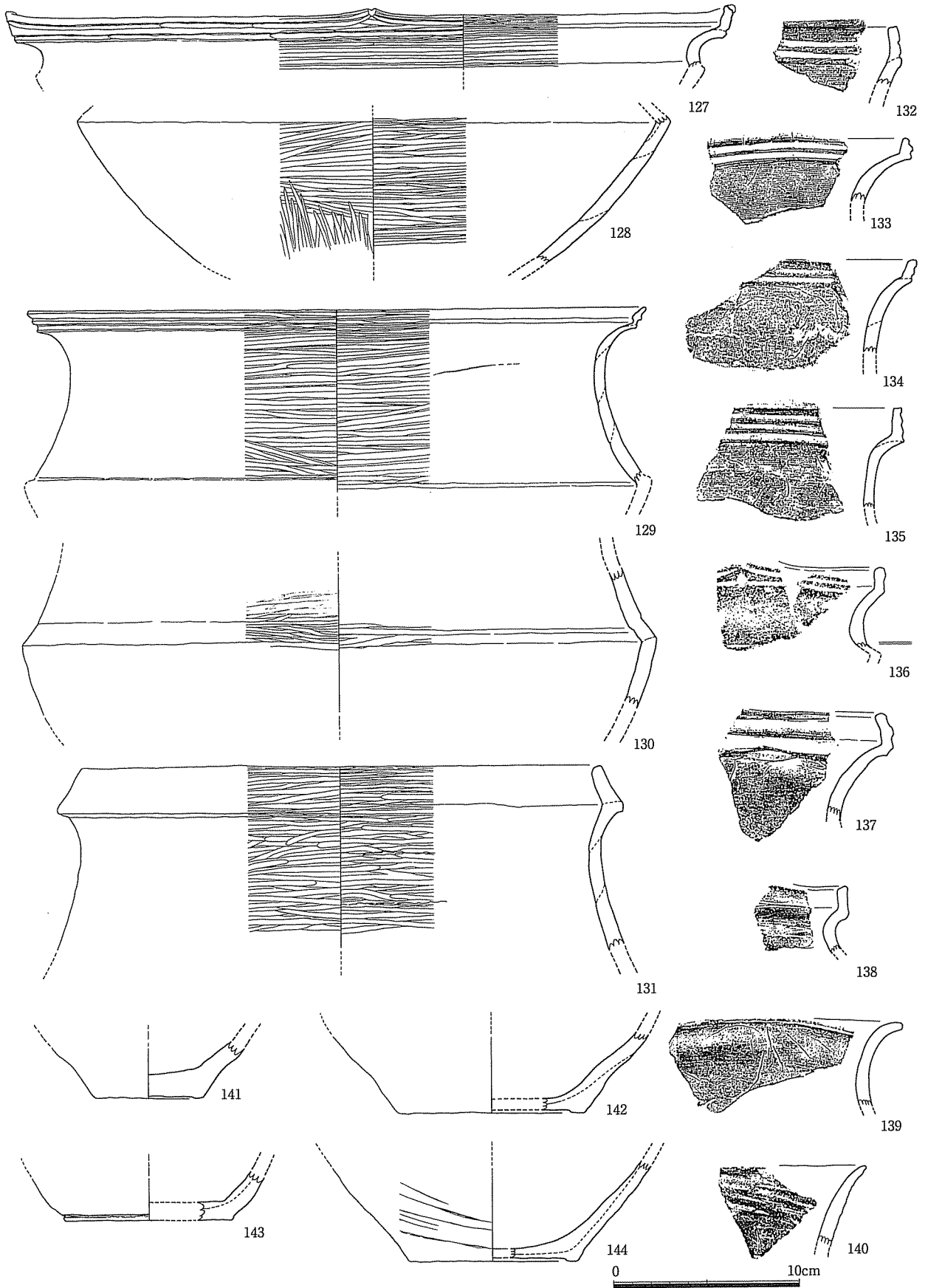


図61 9511調査地点出土遺物実測図7 (1/3)

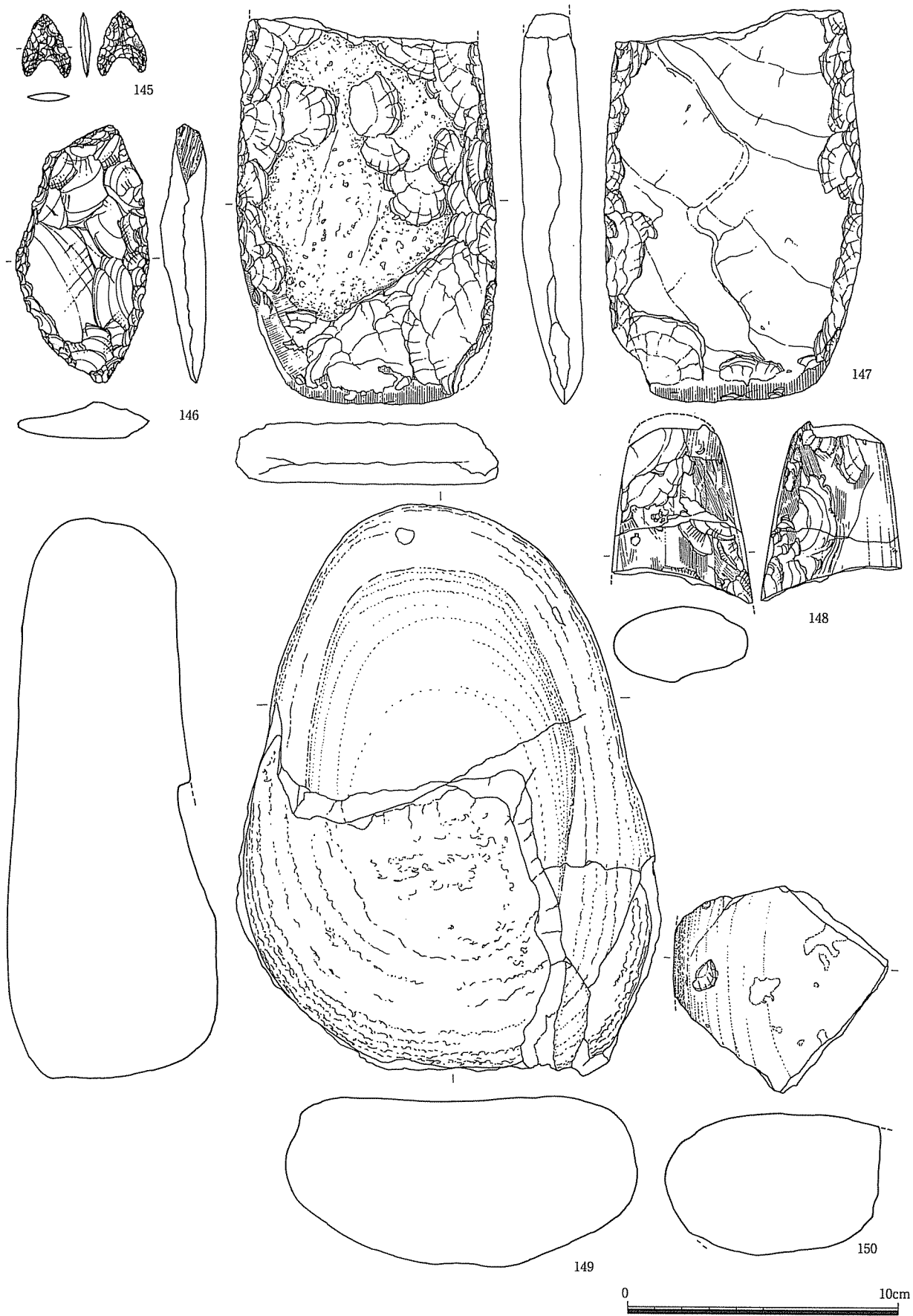


図62 9511調査地点出土遺物実測図8 (1/2)

1. 医学部 RI 総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査

表 9 9511調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
55	1	青磁	碗		口縁部片	内： 外：	内：青緑色 外：青緑色	10号溝	
	2	須恵器	甕		口縁1/6破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y7/2 外：Hue5B3/1	10号溝	
	3	須恵器	甕		口縁1/5破片	内：回転ナデ 外：ハケ目	内：HueN4/0 外：Hue2.5YR5/1	10号溝	
	4	土師器	甕		口縁1/4破片	内：回転ナデ 外：ナデ	内：Hue5YR6/8 外：Hue5YR6/8	19号溝	
	5	土師器	高坏?		口縁1/8破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR5/3 外：Hue5YR7/8	50号住居 址覆土	
	6	土師器	碗		底部1/4破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/8 外：Hue7.5YR6/4	50号住居 址	
	7	須恵器	高坏		脚部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y7/1 外：Hue7.5Y7/1	50号住居 址 P-8	やや軟質
	8	土師器	甕	口径 17.4	口縁1/4破片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue5YR4/1 外：Hue5YR6/8	50号住居 址 P-1	
	9	土師器	甕	口径 15	口縁1/2	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5YR7/6 外：Hue5YR7/8	50号住居 址 P-6	
	10	土師器	小型壺	口径 12.6 最大径16.3 器高 14.3	完形	内：削り・ナデ 外：ハケ目	内：Hue5YR6/8 外：Hue5YR6/8	25号住居 址	外面煤付着
	11	土師器	甌	口径 28.1 底径 8.4 器高 28	完形	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/8 外：Hue5YR6/8	25号住居 址	
	12	土師器	甕	口径 17.0 器高 30.6	完形 口縁一部欠	内：削り 外：ハケ・ナデ	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/6	25号住居 址甕	外面煤付着
	13	土師器	甌(把手付甌)	口径 24.0	口縁・肩 1/3	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居 址	
	14	土師器	甌	口径 29.0	口縁1/2欠・ 底部欠	内：削り 外：ナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue7.5YR6/4	25号住居 址	
56	15	土師器	把手付甌	口径 25.1 最大径 30 器高 28.0	口縁1/3欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/6	25号住居 址	把手あり
	16	土師器	甕	口径 16.9	口縁1/3破片	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue5YR7/6	25号住居 址	
	17	土師器	甕	口径 18.0 最大径 26.2	口縁1/3欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	25号住居 址	
	18	土師器	甕	口径 19.0 最大径28.2	口縁一部 欠・底一部 欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5YR7/4 外：Hue2.5YR7/4	25号住居 址	
	19	土師器	甕	口径 15.0 最大径 14.95	1/2欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR6/3 外：Hue5YR6/6	25号住居 址	
	20	土師器	甕	口径 17.0	口縁1/2破片	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR7/8 外：Hue5YR7/8	25号住居 址	
	21	土師器	甕	口径 16.0	口縁1/4欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue10YR8/4 外：Hue10YR8/4	25号住居 址	
	22	土師器	甕	口径 16.6	口縁1/4欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5YR7/6 外：Hue2.5YR7/6	25号住居 址	外面煤付着
	23	土師器	甕	口径 18.9 最大径 22.6	胴部下欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	25号住居 址	外面煤付着

表9 9511調査地点出土遺物観察表

図	No	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
56	24	土師器	甕	口径 20.4 底径 30.8 器高 34.0	胴・口縁 1/2欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/4 外：Hue5YR6/4	25号住居 址	
57	25	土師器	甕	口径 13.6 最大径 14.6	口縁	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5Y6/4 外：Hue5YR6/6	25号住居 址	
	26	土師器	甕	口径 14.6	口縁1/2	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR5/4 外：Hue7.5YR5/4	25号住居 址	
	27	土師器	甕	口径 17.0	口縁2/3	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居 址	
	28	土師器	甕	口径 21.0	口縁1/4	内：削り 外：ヨコナデ	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue10YR6/4	25号住居 址	
	29	土師器	甕	口径 20.0	口縁1/3	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居 址	
	30	土師器	甕	口径 19.1 底径 25.4 器高 35.2	底部一部欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR7/6 外：Hue10YR8/4	25号住居 址	外面煤付着
	31	土師	甕	口径 17.0	口縁部	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居 址	
	32	土師器	甕	口径 17.1	口縁1/3	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居 址	
	33	土師器	甕	口径 17.4	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/5 外：Hue7.5YR6/6	25号住居 址	
	34	土師器	甕	口径 20.85 最大径 27.7	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue7.5YR6/6	25号住居 址	
35	土師器	甕	口径 19.0 最大径 25.8 器高 32.0	胴半分欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR7/3 外：Hue7.5YR7/6	25号住居 址		
58	36	土師器	甕	口径 19.0	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居 址	
	37	土師器	甕	口径 17.0	口縁1/3	内：削り 外：	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居 址	
	38	土師器	甕	口径 18.4	口縁1/3	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue2.5Y5/3	25号住居 址	
	39	土師器	甕	口径 21.1	口縁2/3	内：削り 外：	内：Hue10YR7/4 外：Hue5YR6/6	25号住居 址	
	40	土師器	甕	口径 17.0	口縁1/2	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居 址	
	41	土師器	甕	口径 19.9	口縁部	内：削り 外：	内：Hue7.5YR6/6 外：Hue7.5YR6/6	25号住居 址	
	42	土師器	甕		口縁1/6	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5Y5/2 外：Hue2.5Y6/3	25号住居 址	
	43	土師器	甕		口縁部片	内：削り 外：ヘラなど	内：Hue10YR8/3 外：Hue10YR8/4	5号住居 址	
	44	土師器	甕		口縁部片	内：削り 外：ハケ目	内：Hue10YR4/2 外：Hue10YR6/4	5号住居 址	煤付着
	45	土師器	碗		口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR7/4	5号住居 址	
46	土師器	碗	底径 10.0	底部1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue5YR6/6	5号住居 址	外面丹塗	

1. 医学部 RI 総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査

表9 9511調査地点出土遺物観察表

図	No	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
58	47	土師器	碗		底部1/5	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR5/6 外：Hue2.5YR5/6	5号住居址	内外丹塗
	48	土師器	坏		1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	5号住居址	内外丹塗
	49	土師器	坏		底部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR5/8 外：Hue5YR5/8	5号住居址	墨書・内外丹塗
	50	須恵器	坏	口径 13.0 底径 8.6 器高 3.3	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/3 外：Hue5Y7/3	5号住居址	
	51	須恵器	坏	口径 12.0	口縁1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/2 外：Hue5Y6/2	5号住居址	
	52	土師器	碗	底径 10.0	底部1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR7/1	5号住居址	内外丹塗
	53	土師器	坏	口径 12.65 底径 8.7 器高 2.7	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	5号住居址	
	54	須恵器	甕	底径 14.8	底部3/4	内：ヘラなで 外：ヘラ削り	内：Hue10YR7/6 外：Hue7.5YR6/6	5号住居址	
	55	須恵器	甕		口縁欠1/4	内：同心円 外：格子叩き	内：Hue5Y6/1 外：Hue7.5Y6/1	5号住居址	
	56	須恵器	坏	口径 12.3 底径 7.7 器高 3.7	口縁1/2欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y6/1 外：Hue2.5Y6/1	65号住居址	
	57	須恵器	坏		口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y6/1 外：Hue2.5Y6/2	65号住居址	
	58	須恵器	坏	口径 13.1 底径 8.1 器高 3.7	口縁一部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y7/2 外：Hue2.5Y7/2	65号住居址	
	59	土師器	坏	口径 13.35 底径 7.3 器高 2.8	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	65号住居址	
	60	土師器	坏	口径 16.0 底径 11.5 器高 3.0	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue5YR5/3	65号住居址	
	61	土師器	碗	底径 11.0	底部1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	65号住居址	内外丹塗
	62	須恵器	甕		胴部片	内：同心円 外：格子叩き	内：HueN7/0 外：Hue5Y7/1	65号住居址	
	63	須恵器	甕		胴部片	内：同心円・平行 外：格子叩き	内：Hue5Y7/2 外：Hue7.5Y6/1	65号住居址	底部付近
	64	土師器	甕	口径 16.6	1/6	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR6/6 外：Hue5YR6/6	65号住居址	煤付着
	65	土師器	甕	口径 34.7	底部欠1/2	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR7/6 外：Hue10YR6/6	65号住居址	
	66	土師器	甕		口縁1/5	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue10YR6/4 外：Hue7.5YR7/5	65号住居址	
59	67	土師器	坏	口径 13.35 底径 7.3 器高 3.0	口縁一部欠損	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	7号住居址	
	68	土師器	甕	口径 30.0	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue10YR5/4 外：Hue2.5YR5/3	7号住居址	
	69	須恵器	碗	底径 8.3	底部2/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y5/1 外：Hue5Y5/1	80号住居址	

表9 9511調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
59	70	須恵器	皿	口径 15.6 底径 12.4 器高 1.7	口縁1/5	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/2 外：Hue5Y6/2	6号方形堅穴	
	71	土師器	碗	口径 11.4 底径 6.8 器高 5.1	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR6/4 外：Hue10YR4/2	6号方形堅穴	
	72	土師器	坏	口径 13.2 底径 8.2 器高 3.0	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/4 外：Hue10YR8/4	6号方形堅穴	
	73	土師器	坏	口径 14.2 底径 4.4 器高 3.3	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue7.5YR7/6	6号方形堅穴	内外丹塗
	74	土師器	坏		1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	6号方形堅穴	底に板目
	75	土師器	坏	底径 3.4	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/6 外：Hue5YR6/6	6号方形堅穴	
	76	土師器	高坏		坏底部1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR5/6	6号方形堅穴	丹塗
	77	鉄器	刀子	長さ 8.6 幅 1.3 厚さ 0.3				6号方形堅穴	
	78	須恵器	高台付皿	口径 14.5 底径 9.8 器高 3.3	一部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y7/2 外：Hue2.5Y7/2	46号方形堅穴	墨書
	79	須恵器	坏	口径 13.1 底径 6.8 器高 3.0	1/4欠損	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/1 外：Hue5Y6/1	46号方形堅穴	
	80	須恵器	碗	口径 17.0	口縁1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/2 外：Hue5Y7/2	46号方形堅穴	
	81	土師器	坏	口径 12.4 底径 7.9	1/5	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR5/6 外：Hue2.5YR5/6	46号方形堅穴	
	82	土師器	坏	口径 12.6 底径 7.0 器高 2.9	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue2.5YR5/6	46号方形堅穴	
	83	土師器	甕	口径 26.7 最大径 26.1	口縁1/3	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5Y5/2 外：Hue10YR4/2	46号方形堅穴	
	84	土師器	坏		破片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue5YR6/4 外：Hue5YR6/4	13号七坑 (B-3・4区)	墨書
	85	土師器	坏		破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	13号土坑 (B-3・4区)	墨書・内外丹塗
	86	須恵器	坏	口径 13.1 底径 8.1 器高 3.0	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/3 外：Hue5Y6/3	76号ビット (86号掘立柱建物)	
	87	土師器	坏	底径 7.2	底部3/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	72号焼土 (G-6区)	底に板目
	88	須恵器	高坏		坏・脚1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/2 外：Hue5Y7/2	155号ビット (B-6区)	
	89	須恵器	甕	口径 14.2 最大径 16.45	口・肩部 1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/3 外：Hue5Y6/2	155号ビット (B-6区)	
	90	須恵器	碗	口径 15.7	口縁1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/2 外：Hue5Y6/2	79号ビット (D-10区)	
	91	土師器	碗	口径 17.0	口縁1/5	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR5/6 外：Hue5YR4/3	166号ビット (H-12・13区)	
	92	土師器	碗	口径 11.2 底径 7.0 器高 5.35	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue7.5YR6/6	9号ビット (G-9区)	

1. 医学部 RI 総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査

表9 9511調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
59	93	土師器	坏	口径 12.3 底径 6.8 器高 3.2	1/4	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: Hue7.5YR6/6 外: Hue5YR6/6	34号遺物集 中部 (65号 住居址上)	
	94	土師器	碗	口径 10.9 底径 6.9 器高 5.2	1/4欠損	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: Hue7.5YR5/3 外: Hue10YR5/3	45号遺物集 中部 (E- 10区)	
	95	須恵器	坏	口径 13.3 底径 7.3 器高 2.4	1/4	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: Hue5Y6/2 外: Hue5Y6/2	33号 (E- 8区包含 層)	
	96	須恵器	大甕	口径 50.0	口縁1/6	内:ナデ 外:ハケ目	内: HueN5/0 外: Hue2.5Y6/2	29号 (D- 8区包含 層)	
	97	須恵器	蓋	口径 13.1 器高 2.2	1/6	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: Hue5Y6/1 外: Hue5Y6/2	40号土坑 (C・D- 7区)	
	98	須恵器	坏	口径 10.2	1/2	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: Hue7.5Y5/1 外: Hue7.5Y5/1	144号ピット (D-4区)	
	99	須恵器	坏	口径 11.6 底径 7.2 器高 3.95	2/3	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: Hue5Y4/1 外: Hue10YR4/2	C11区 (28号溝 刃部)	自然袖付着
	100	土師器	甕	口径 24.0	口縁部片	内:ハケ・削り 外:ハケ目	内: Hue2.5Y7/4 外: Hue10YR7/6	101号ピット (G-7 区)	
	101	土師器	鉢	口径 24.6	口縁1/6	内:ナデ 外:ヘラ削り	内: Hue10YR6/4 外: Hue7.5YR5/2	88号ピット (F-5区)	煤付着
	102	土師器	甕		口縁部片	内:削り 外:ナデ	内: Hue7.5YR6/6 外: Hue7.5YR6/6	43号土坑 (E-9区)	
	103	土師器	甕		口縁1/5	内:削り 外:ハケ目	内: Hue7.5YR7/6 外: Hue7.5YR7/6	142号ピット (D-7区)	
60	104	須恵器	甕	最大径 20.5	口縁欠	内:同心・ナデ 外:格子叩き	内: Hue2.5Y8/3 外: Hue2.5Y8/3	70号遺構 (B-9区)	外表皮剥落
	105	須恵器	碗	口径 14.0 底径 8.0 器高 5.2	口縁3/4欠	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: Hue5Y6/3 外: Hue5y6/3	包含層 (E-7区)	
	106	須恵器	碗	底径 9.0	口縁1/2欠	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: Hue2.5YR7/2 外: Hue2.5YR7/2	包含層 (G-10 区)	墨書「田」?
	107	須恵器	碗	底径 9.8	1/2・口縁 欠	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: Hue5YR7/4 外: Hue10YR7/1	包含層 (E-8区)	やや軟質・外面煤 付着
	108	須恵器	高坏	口径 15.1	脚部1/3	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: Hue2.5Y7/2 外: Hue2.5Y7/2	包含層 (E-9区)	
	109	土師器	甕	口径 14.4	口縁1/3破 片	内:削り 外:ハケ目	内: Hue5YR7/6 外: Hue5YR7/8	57号 (D-7区 包含層)	
	110	土師器	甕	口径 19.0	口縁1/3破 片	内:削り 外:ナデ	内: Hue5YR7/6 外: Hue2.5YR6/8	122号 (C-3区 包含層)	
	111	須恵器	平瓶	口径 6.9 底径 6.3 器高 12.5	ほぼ完形	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: HueN6/0 外: HueN6/0	包含層 (D-4区)	底部削り
	112	須恵器	壺	最大径 16 底径 8.7	口縁欠	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: Hue7.5Y6/1 外: HueN7/0	包含層 (D-7区)	
	113	土師器	碗	口径 13.3 底径 7.3 器高 5.5	口縁1/2欠	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: Hue5YR7/8 外: Hue5YR7/8	包含層 (G-6区)	
	114	土師器	碗	底径 6.7	口縁欠	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: Hue2.5YR6/8 外: Hue2.5YR6/8	包含層 (G-7区)	内外丹塗
	115	土師器	高台付皿	口径 14.5 底径 9.3 器高 2.5	1/3	内:回転ナデ 外:回転ナデ	内: Hue2.5YR6/8 外: Hue2.5YR6/8	包含層 (G-1区)	内外丹塗

表9 9511調査地点出土遺物観察表

図	No	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
60	116	土師器	坏	口径 14.2 器高 3.1	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR7/8 外：Hue2.5YR7/8	包含層 (G-7区)	
	117	瓦	平瓦	長さ 9.0 幅 4.5 厚さ 1.4		内：布目 外：縄目	内：Hue10YR6/2 外：Hue5YR6/4	4号溝	
	118	瓦	平瓦	長さ 5.3 幅 5.0 厚さ 1.3		内：布目 外：ナデ	内：Hue5YR6/1 外：Hue5YR6/1	90号道路 状遺構	
	119	瓦	平瓦	長さ 4.7 幅 3.0 厚さ 1.2		内：布目 外：縄目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	攪乱	
	120	瓦	平瓦	長さ 3.3 幅 2.6 厚さ 1.2		内：布目 外：ナデ	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/6	包含層	
	121	瓦	平瓦	長さ 6.5 幅 4.2 厚さ 1.6		内：布目 外：縄目	内：Hue10YR6/2 外：Hue10YR6/2	攪乱	
	122	瓦	平瓦	長さ 5.8 幅 6.0 厚さ 1.6		内：布目 外：縄目	内：Hue5YR7/8 外：Hue5YR7/8	24号 (B-10区攪乱)	
	123	瓦	平瓦	長さ 5.5 幅 5.2 厚さ 1.2		内：布目 外：ナデ	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/6	攪乱	
	124	土製品	木葉痕	高さ 8.1		内：ナデ 外：ナデ	Hue2.5YR5/6	44号ピット (E-9区)	
	125	鉄器	鉄鏃	長さ 5.7 幅 1.5 厚さ 0.5				包含層	基部欠損
	126	銅製品	銅銭	直径 2.45				包含層	寛永通宝
61	127	縄文土器	浅鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR8/3 外：Hue10YR8/3	包含層 (H-5区)	
	128	縄文土器	深鉢形土器	最大径33.0	胴部片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR7/3 外：Hue7.5YR6/6	包含層 (E-7区)	131と同一個体か
	129	縄文土器	深鉢形土器	口径33.0	口縁1/3	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR6/4	包含層 (E-7区)	
	130	縄文土器	深鉢形土器	最大径34.0	胴部片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR8/4 外：Hue7.5YR7/4	包含層 (G-4・5区)	
	131	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR7/4	47号 (E-7区65号住居上)	
	132	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR7/3 外：Hue10YR7/3	包含層 (G-7区)	
	133	縄文土器	鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR6/2 外：Hue10YR6/2	包含層 (H-5区)	
	134	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue7.5YR6/4	139号土坑	
	135	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	包含層 (H-3・4区)	
	136	縄文土器	鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR7/2 外：Hue7.5YR7/6	包含層 (D・E-7区)	
	137	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR6/2 外：Hue10YR6/2	包含層 (G-12区)	
	138	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR7/3 外：Hue10YR7/3	包含層 (E-7区)	

表9 9511調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
61	139	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR4/1 外：Hue7.5YR7/3	50号住居址	
	140	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue5YR6/8	包含層 (A-6区)	
	141	縄文土器	深鉢形土器	底径 4.4	底部	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue10YR7/1 外：Hue10YR7/1	包含層 (G-6区)	
	142	縄文土器	深鉢形土器	底径 9.9	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue10YR6/3 外：Hue7.5YR7/6	包含層 (F-6区)	
	143	縄文土器	深鉢形土器	底径 9.0	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue7.5YR4/1 外：Hue7.5YR7/6	包含層 (H-5区)	
	144	縄文土器	深鉢形土器	底径 8.95	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue10YR7/2 外：Hue10YR8/4	包含層 (G-7区)	
62	145	石器	打製石鏃	長さ 2.4 幅 1.8 厚さ 0.3	完形			包含層	サスカイト
	146	石器	スクレイパー	長さ 9.6 幅 5.0 厚さ 1.5	完形			30号溝	安山岩
	147	石器	刃部磨製石斧	長さ 14.5 幅 9.5 厚さ 2.0	頭部欠			包含層 (E-8区)	角閃石安山岩
	148	石器	磨製石斧	長さ 6.8 幅 5.3 厚さ 3.0	頭部			58号遺構	硬質頁岩
	149	石器	石皿	長さ 20.6 幅 15.6 厚さ 7.8	一部欠損			58号遺構	砂岩
	150	石器	磨石	長さ 7.5 幅 7.5 厚さ 6.0	破片			58号遺構	砂岩?

5号竪穴住居址出土遺物

43・44は土師器甕、45～47・52は土師器碗、48・49・53は土師器坏である。55は頸部の小さな須恵器壺である。丸い球状の体部が特徴的である。

65号竪穴住居址出土遺物

56～58は須恵器坏、62・63は甕、59・60は土師器の坏、61は碗、64～66は甕である。

7号竪穴住居址出土遺物

67は土師器の坏である。中央の土層ベルト部分から出土した。68は土師器の甕である。

6号方形竪穴出土遺物

72～75は土師器の坏、70は須恵器皿、71は土師器碗、76は丹塗りの土師器高坏である。77は鉄製刀子である。71から9世紀前半ごろの遺構と思われる。

46号方形竪穴出土遺物

78は「風」に似た字を外底に墨書した須恵器の高台付皿である。79は須恵器坏、80は碗である。81・82は土師器坏、83は甕である。

その他の遺構および包含層出土遺物

今回の調査では、上述した遺構以外にピットや土坑および包含層から多量の遺物が出土した。古代の土師器や須恵器などの容器の破片(84～114)がほとんどであるが、特徴的なものについて一部紹介しておく。124は44号土坑から出土した木の葉猿である。近世以降の所産であろう。126は「寛永通

寶（初鑄1636年）」である。84・85は13号土坑（近世）から出土した墨書土器（坏）（「不明」、「大」）である。125は鉄鏃である。基部を欠損する。105は完形に近い須恵器碗である。65号竪穴住居址に近接して出土した。これ以外に、包含層より100点ほどの縄文後期後半～晩期初頭の上器（図61）や石器（図62）が出土している。土器のほとんどは御領式土器の深鉢や浅鉢の破片であるが、天城式土器片（133）も一部含まれている。石器としては、サヌカイト製石鏃（145）、同スクレイパー（146）、硬質頁岩石斧頭部（148）、角閃石安山岩製刃部磨製石斧（147）、砂岩製石皿（149）、同磨石（150）などがある。

2. まとめ

今回の調査では、これまであまり内容の知られていなかった本荘遺跡の性格の一端を明らかにすることができた。本調査区においてもっとも古い遺物は、縄文時代後期後半のものである。該期の遺物は包含層からの出土がほとんどで、明確な遺構は伴っていない。しかし、石皿や磨石などが近接して出土する地点もあり、生活址の痕跡がわずかながら認められる。この地点では、古代の包含層と縄文時代の包含層を区別することはできなかったが、周辺部において、両層の分離と明確な遺構を発見することが今後の課題であろう。

古墳時代後期から古代にかけての遺構が、本調査区での検出遺構の主体をなすものである。最も古い遺構は、68号溝および13号溝である（Ⅰ期）。次の時期に属するのが、55号溝である（Ⅱ期）。次に25号竪穴住居址と50号竪穴住居址で、他の竪穴住居址および方形竪穴遺構もこの時期に属する。19号溝および90号道路状遺構もこの時期もしくはそれ以降に属する可能性が高い。この時期はこの遺跡の主体をなし、8世紀後半から9世紀前半にあたり、かなり長期にわたる。住居址の方向や規模から25号竪穴住居址と50号竪穴住居址とその他の竪穴住居址の2時期もしくはそれ以上に細分ができそうである。85号掘立柱建物址および95号掘立柱建物址は方向および覆土の特徴が類似することからこのⅠ期もしくはⅡ期の前半に属する可能性が高い。これ以降、中世末期にいたるまで本調査区は生活の痕跡を留めていない。これは、集落としての繁栄と廃絶される時期が、みごとに大江遺跡群に展開した古代集落と一致していることを示している。このことは、国府などの政治機関の移転に伴う集落の廃絶の反映として捉えられ、この集落の村人が国府や郡家に出司していた下級役人であった可能性を示している。これはわずかながら出土する墨書土器片が傍証となろう。

次にこの地に生活の痕跡が認められるのは10号溝に代表されるように16世紀後半になってからである（Ⅲ期）。しかし、近世の大溝にも認められるように生活痕跡は溝などの遺構に限られる。近代以降の削平によるものなのか、集落の中心ではなく、周辺部の状況を示すものなのか、今後の調査の成果を待ちたい。